

会 議 議 事 録 (抄)

会 議 名	専門学校東京テクニカルカレッジ 第一回 建築・インテリア系教育課程編成委員会	
開 催 日 時	平成 28 年 11 月 29 日 (火) 15 時 00 分～17 時 00 分	
会 場	専門学校東京テクニカルカレッジ 地下 1 階 テラホール、9 階 904 教室	
参 加 者	外部委員：5 名	内部委員・学内関係者：4 名
	<外部委員：5 名> (順不同・敬称略、役職は委員名簿参照) 大塚雄二 (公益社団法人建築家協会 大塚雄二都市建築設計事務所) 樋口修 (東京商工会議所中野支部／株式会社ヒグチ設計) 中山聡 (前田建設工業株式会社) 霜野隆 (日本インテリアプランナー協会会長 株式会社レスト マムハウス事業部部長) 宮脇伸歩 (株式会社 L I X I L) <内部委員：4 名> 杉本安雄 (同 建築監督科科长) 野上和裕 (同 建築科科长、議長) 鈴木昇 (同 建築科夜間(建築士専科)科科长) 高山寿一郎 (同 インテリア科科长、書記)	
会 議 録	<第一部 系別分科会> 15:00～15:35 B1F テラホール 1. 学園側関係者挨拶 専門学校東京テクニカルカレッジ校長 高瀬恵吾 2. 委員のご紹介 3. 前回会議 (平成 28 年度第 1 回会議) (全体会議) 議事録確認 4. 平成 28 年事業計画進捗状況報告 ①就職内定状況に関する報告 ②学生募集状況に関する報告 ③三つのポリシー策定に関する報告 ④リアルジョブプロジェクトの取り組みに関する報告 ⑤卒業生調査に関する報告 ⑥海外研修等特別プログラムに関する報告 ⑦研究倫理委員会に関する報告 <第二部 系別分科会> 15:45～17:00 904 教室 1. 議長挨拶 (野上) 2. 前回 (系別分科会) 議事録の確認 (野上) 以下、前回の議事録を訂正させて頂きました。 ・当校の夜間課程は授業の開始時間を会社の就業時間に合わせ遅いこと (16 時 30 分開始) がアドバンテージとなっている。 → 訂正 18 時 30 分 3. 意見交換 ・今回は、建築監督科の実習授業についてのご意見をいただきたい。(野上) ・杉本より今年度の就職内定企業の説明、配布資料を基に、建築監督科卒業生の就職内定企業の紹介、建築監督のコアカリキュラムを説明させていただいた。また、今年度の入学生の代よりカリキュラムの変更が、実施時期の変更 (建築科→監督科編入が可能になるため) を行っている。	

・丁寧な教材を作られている。積算に関しては細かいものより、坪単価や規模の価格を教えてみてはどうか。(中山)

・病院の設備当たりの単価などをコストプランニングの授業で教えている。コンクリートの発注量くらいはわかるようにするのが積算の授業で、歩掛や人工などをもう少し詳しく勉強するところが必要かと考えている。(杉本)。

・人が作るものなので、その辺は避けて通れない。数量計算は外せない。丁寧な教材を作っている。(中山)

・生産の授業の中で生産現場が見られれば(その授業に合う)、現場見学をしたい。(杉本)

・この学校の敷地を使って特別養護老人ホームを計画しているのか。法的なものも教えているのか。(樋口)

・企画書を作るまでが1期間、設計で1期間として行っている。企画書を作成する段階でいろいろと情報を勉強している。を週4コマの中で細かい実習を行いながら勉強をしている。(杉本)

・中野区は空き家が増えている。そのような老人ホームの計画はできないかと考えている。法的に難しい(樋口)。

・学生にテーマを与えている。在宅介護を支援するような施設は必要になること。シェアハウスの提案もさせている。(杉本)

・今建っているアパートなどは、昔の法律ギリギリで建っているので壊すとどうにもならない。リフォームしながら、耐震補強をしながら老人の施設にすることはテーマになりそうな気がする。(樋口)

・グループホームを造っているところもある。(鈴木)

・最近の傾向によるとサービス付き高齢者住宅が増えている。国の方針がそちらにシフトしている感じがする。高齢者と家族と一緒に住める施設で、家族が高齢者の面倒を見る。現代の情報を入れながらの現代に合った設計をしていく必要があると考える。(大塚)

・今やっている課題は昔ながらの特養の発想だと思う。(鈴木)

・建設会社が求める人材を訓練するという意味で、現在の社会的な問題点把握しながらやっていくということは非常に重要で、そのようなトレーニングがないとただ作る人になってし

まうと思う。(大塚)

・建築監督科の最初の2年間は学習はそのためのものだと言っている。テクニック的に建築の設計がうまくなるよりは、建築の根底に流れているものが理解できることが大事だと思っている。水沢工務店の非常勤講師の方も、設計者とどのようにうまく付き合っていくのか、設計者が考えていることをよく理解することにより設計者も監督も成長できると学生に教えてくださっている。(杉本)

・基本的に監督を育てることだと、図面があつてそれを作るということは前提であるが、何を作るかが理解できている方が良いものができると思う。(宮脇)

・渡されたお金をどのように割り振り義務にかかわる問題で、それぞれがしっかりとしたポリシーを立てていくということが大事で、徹底的に安全にお金をかける監督がいてもいいと思うし、そういう人間を作っていくことが出来るか考えている。(杉本)

・監督によっては違うものができる。(宮脇)

・監督によっては見積も違う。(中山)

・授業の全体の流れはいいと思う。今の建築基準法は新築が前提の法律なので、現在の空き家に関しては適応できない。見直しはしていると思う。(霜野)

・監督科では AutoCAD を使用しているが、今後現場では BIM を知っている必要はあるのか。(杉本)

・特殊な建築を計画する人は BIM を活用してかなり今までできなかったものも安価に作るようになった傾向はある。(大塚)

・施工 BIM という言葉がある。BIM でダクトのおさまりなどの検討をしたり、シミュレーションして検討している。しかし、現場の一職員が自分でオペレーションしながらはやっていない。概略は必要。(中山)

・現在4年生の1期に BIM の授業を実施しようと思っている。施工の人間が BIM を自分で操るということは、今はあまりないと思っているが、5年後はどのようになっていると想像できるか。(杉本)

・BIM (Building Information Modeling) は、情報をデジタル化して関係者と情報を共有して意思決定のプロセスを早くする、施工者と発注者、設計事務所との意思疎通を明確にすることが目的だが、施工者側としては BIM を使うことによって余計な手間がかかることは

嫌う。生産性が上がれば良いが、設計者と施工者の自分の仕事の関わり方でずれがあるように思う。施工者にとっての BIM であるべきだと思う。(中山)

・現場も情報化が進んでいて、写真を撮るにしても、以前はコンクリートの打設前に、青焼きにしてマジックで配筋図を描き、黒板に張り付けて破きながら時間をかけて作業をしていたが、今はシステムの中でそれらが出来てしまう。施工者が自分の仕事が楽になるように、もっとそれらのツールを磨いてほしい。

・5、6年後はその方向性はあるかもしれないですね。(杉本)

・絶対あると思います。社内資料などを見ると職長がノートパッドを使って仕事をしている。打ち合わせに出る前に作業予定や要望を入れて、会議の時には調整が終わっており確認だけで終わらせている。本当にメリットのある道具であれば、職人レベルでも。情報がデジタル化されていき、作り手にどう影響していくか興味がある。建設現場がどんな風に変わっていくかは、想像が出来ない。(中山)

・フリーハンドのスケッチで職人に指示をしたほうが現場監督さんというイメージがある。(杉本)

・警察の手描きのモニタージュ写真での検挙率が高いように、そういう大事なところが残っているのではないのでしょうか。(中山)

・基礎は出来ていないといけないと思う。そこに新しいツールが必要になることを学生たちが認識できれば良いのだと思う。(霜野)

・新しい技術はどんどん進歩していくので、それを取り入れて教えていくことだと思うが、それをどう使うのかを教えていかなければならないと思う。(大塚)

いろいろな情報の伝達方法があって、情報が現場にきて最後は職人の手で作っている以上は、そのシステムは変わらない。監督は右にも、左にも目が向けられないといけないと思う。(鈴木)

・そのような理由があるので建築監督科は4年間かかるのだと思う。(杉本)

・現場でやっているようなことを、1日や2日、前田建設様に伺わせて頂いてレクチャーを受けることは出来るのでしょうか？(野上)

可能です。(中山)

・カリキュラムで組んでしまうと、変更があったときに学校は動きが遅いのでカリキュラム

には組み込まないが、インターンという言葉が良いのかわからないが、現場を見せさせていただくことによって経験値が上がると思うのですが。(野上)

・4年次に授業で行っている規模の現場を、定期的に3つくらいの現場を、学生20人くらいでも、5人くらいでも、所長や職人の話を聞いたりすることが出来るといいと思う。(霜野)

・学校側ではインターンシップを7週間で取ることが可能にはなっているが、受け入れ側が難しい。最長でも5日間で原則1人か2人。外に出て目的をもって勉強させるのが難しいと思っている。専門職大学認定の要綱の中には、インターンシップの期間を半年行うなどもあり、建築科の場合は難しいと思う(杉本)

・オープンデスクのようなものがあるといいと思う。生産の授業に合わせて現場を見に行くということは経験上非常にいいことなのかもしれないが、非常に表層的なものしか勉強出来ない。(大塚)

・いろいろな企業にお願いして5日間の時間を取って頂いているが、一つの現場に居られない(進行状況は違うが5つの現場を見るような形)。このようなインターンシップの話が企業から頂くので、数人の学生を行かせるものはある。(杉本)

・インターンシップが現場見学になってしまう。(大塚)。

・現場の労働条件は、サラリーマンみたいな状況になっている。(霜野)

・イメージは3K。もっとかつこいいイメージがないと学生が集まらないにくいかな。(霜野)

・今の集め方をして入学している学生は、必ず就職後企業に役立つと思っている。はじめから監督をやりたいと思っている学生を育てるが大事だと思っている。(杉本)

・建築協会の方たちが集まって話す内容の中に、最近の若者は仕事があんまり好きではないのか？建築が好きじゃないというのもあるのかもしれない。管理側からするとブラック企業にならないようにすることは当然のことだが、若者からすると、そんなに働きたくないというイメージが多少昔よりも強い感じがする。もうちょっと建築を好きにしていけないのかなと思う。(大塚)

・オープンキャンパス時に同じようなことを感じる。なぜ建築科を見学しているかという理由に、昔好きだった、近しい人に建築をしている人がいる。働きたくない。地元がいい。休みが多いほうがいい。就職活動を始めるまでに建築の面白さをどのように伝えるかが問題だと思っている。建築科の見学生でも、建築監督科に向いていそうな学生(性格・資質をみて)

	は建築監督科へ誘導している。 （野上） 4. 次回日程（議長） ・平成 28 年度卒業研究・卒業制作および RJP 学習成果発表会 平成29年3月14日（火）13時30分～17時00分 各科学習成果発表の評価者として参加をお願いいたします。 5. 閉式の辞（議長） 以上
--	--